

食と緑の

西三河地域レポート 2019

— 食と緑が支える豊かな暮らしをめざして —

(平成30年度の実績報告)



令和元年7月

目 次

I	レポート作成の趣旨	1
	(25の中項目)	
II	取組と基本目標の実現への重点的取組事例	2
1	競争力の高い農林水産業の展開による食料等の安定的な供給の確保	2
(1)	あいちの強みを生かした技術による品質や生産性の向上	2
ア	幅広い分野の先端技術等を活用した技術の開発と普及	2
イ	幅広い需要に応える戦略的な品種の開発と普及	2
(2)	マーケットインの視点に立った生産・流通の改善と需要の拡大	3
ア	多様なニーズに対応した生産・流通面の改善	3
イ	県内外に向けた戦略的な需要の拡大	3
ウ	農林水産物等の輸出の促進	3
(3)	意欲ある担い手が活躍できる農業の実現	4
ア	多様な担い手の確保・育成	4
イ	優良農地の確保と集積・集約化の推進	4
ウ	農業生産基盤整備の推進	4
(4)	資源を生かす林業の実現	5
ア	木材の安定供給	5
イ	生産を担う人材の確保・育成	5
ウ	林業生産基盤の充実	5
(5)	持続可能で活力ある水産業の実現	6
ア	漁業生産基盤の機能強化	6
イ	持続的な漁業生産の確保	6
ウ	活力ある担い手の確保・育成	6
(6)	食料の安全・安心の確保と環境への配慮	7
ア	食品の安全・安心の確保に向けた取組の強化	7
イ	環境に配慮した取組の推進	7
2	農林水産業への理解促進と食料等の適切な消費の実践	8
(1)	農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進	8
ア	農林水産業の関心と理解を深める取組の推進	8
イ	幅広い世代に対する農林水産業体験の機会の提供	8
(2)	食育の推進による健全な食生活の実践	9
ア	若い世代を中心とした生涯にわたる食育の推進	9
イ	食を通じた県産農林水産物や環境への理解と食文化の継承	9
3	自然災害に強く緑と水に恵まれた生活環境の確保と元気な地域づくり	10
(1)	災害に強く安全で快適な生活環境の確保	10
ア	農山漁村の強靱化に向けた防災・減災対策の推進	10

- イ 快適な生活環境の確保 10
- (2) 森林・農地・漁場の有する多面的機能の発揮 11
 - ア 多面的機能を適切に発揮させる森林・農地・漁場の保全・整備 11
 - イ 地域で取り組む森林・農地・漁場の保全活動の推進 11
- (3) 農林水産業を核とした元気な地域づくり 12
 - ア 地域の特性を生かした農山漁村の活性化 12

(2つの重点プロジェクト)

Ⅲ 西三河地域重点プロジェクト

- 1 西三河地域産地活性化・担い手確保育成プロジェクト 13
- 2 西三河農山漁村地域の防災・減災対策プロジェクト 15

表紙 写真の説明



きゅうりの炭酸ガス局所施用(ダクト)



緊急農地防災事業高棚地区
(安城市)



あいち森と緑づくり森林整備事業
(人工林)施工地(岡崎市千万町町)



放流を待つあわび種苗

I レポート作成の趣旨

愛知県は、「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」に基づき、その理念を実現するための基本計画として、平成32年度を目標年度とする「食と緑の基本計画2020」を平成28年3月に策定・公表しました。

西三河農林水産事務所では、「食と緑の基本計画2020」に即し、地域の特色や実情を踏まえた重点的な取組目標と、その達成のための平成32年度までの主な取組事項を定めた実践計画を「食と緑の基本計画2020西三河地域推進プラン」として平成28年3月に策定し、各取組を推進しています。

このレポートは、計画の進行管理の一環として西三河地域推進プランに掲げる18の取組目標を達成するために取組んだ事例等を紹介し、各種事業を推進するための参考資料として平成30年度の取組を中心に取りまとめたものです。

「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」の基本理念

- 将来にわたって安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること。
- 将来にわたって森林等の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な県民の生活環境が確保されること。



II 取組と基本目標の実現への重点的取組事例

1 競争力の高い農林水産業の展開による食料等の安定的な供給の確保

(1) あいちの強みを生かした技術による品質や生産性の向上

ア 幅広い分野の先端技術等を活用した技術の開発と普及

あいち型植物工場推進事業を活用して、きゅうり、なす、トマト、いちご、きく、ばらの6品目・7産地で、環境モニタリング装置33台、炭酸ガス発生装置46台や、環境制御装置・循環扇・炭酸ガス局所施用などの高度環境制御設備の導入等を支援しました。併せて、あいち型植物工場に取り組んでいる4品目・5産地において、それらの装置を使った新技術を実証・改良し、成果を普及することで高収量や高品質をめざす取組も支援しています。



きゅうりの炭酸ガス局所施用(ファン)

〈環境モニタリング装置等の導入や、技術の実証・普及等の取組を実施した品目及び産地〉

品目	産地	環境モニタリング装置等の導入	技術の実証等の取組
きゅうり	安城市・碧南市	○	○
	西尾市	○	○
なす	碧南市	○	
	岡崎市・幸田町		○
トマト	碧南市	○	
いちご	西尾市	○	○
バラ	西尾市	○	
きく	西尾市	○	○



きゅうりの炭酸ガス局所施用(ダクト)

イ 幅広い需要に応える戦略的な品種の開発と普及

管内の鉢物農家は183戸あり、鉢花、観葉植物、洋ラン、苗物の4部門で多種多様な鉢物が生産されております。

農業経営にとってオリジナル商品の保持は重要であることから農業改良普及課では開発の支援を行っており、平成30年度には5件、平成28年から累計で14件の新商品が開発されました。

また、新商品のうちの新たな品種の開発は、平成30年度にはコチョウラン、ファイラ、ドウランタの3件で、平成28年度からの累計では5件となりました。



品種登録申請された
ドウランタ

(2) マーケットインの視点に立った生産・流通の改善と需要の拡大

ア 多様なニーズに対応した生産・流通面の改善

平成30年12月12日に西三河地域6次産業化推進連絡会議及び現地研修会を開催し、6次産業化の取組について情報の共有と交換を行いました。また、農林水産物の加工や新商品開発等、6次産業化に取り組む意向のある管内の農林漁業者9名に対し、愛知県6次産業化サポートセンターのプランナーとともに相談、支援を行いました。



6次産業化推進連絡会議

イ 県内外に向けた戦略的な需要の拡大

あいち花フェスタ2018 in デンパークが、平成30年11月22日(木)から25日(日)までの4日間、安城市、JAあいち中央、安城市温室園芸組合の協力のもと、安城産業文化公園デンパークにて開催されました。

来場者数は37,592人にもものぼり、多くの方に愛知の花の魅力を知っていただきました。



花の産直コーナー（安城市温室園芸組合）

花と緑に親しみ育てることを通じて、やさしさや美しさを感じる心を育むことなどを目的に、小学生を対象とした花育教室を開催しました。

花育教室では、始めに愛知県の花の生産状況などを紹介し、続いて花育ティーチャーの指導のもと、寄せ植えやフラワーアレンジメント、花壇・苔玉づくりを行いました。

6市町の小学校11校で、延べ544名の児童を対象として行い、出来上がった作品は卒業式・入学式などの会場を飾ったり、2分の1成人式や敬老の日の家族へのプレゼントなどに使われます。



花育教室（寄せ植えづくり）

ウ 農林水産物等の輸出の促進

安城市農畜産物特産品協議会（構成員：安城市、JAあいち中央、安城商工会議所など）は、「農産物海外販路開拓プロジェクト」としていちじくの輸出について検討しています。

30年度は、いちじくの香港への輸送試験や、輸出に向けたPRとして中部国際空港発香港行きビジネスクラスの航空機内食への提供を行いました。輸送試験では、いちじくの熟度や荷姿、温度管理の違いによる検証を行い、現地到着後の追跡調査の結果、品質に問題なく輸送できることが確認されました。



いちじく輸送試験の荷姿の一つ

(3) 意欲ある担い手が活躍できる農業の実現

ア 多様な担い手の確保・育成

農業改良普及課では、就農相談の窓口として農起業支援センターを設置し、作目選定から就農までの一連の支援を行っています。30年度の就農相談対応実績は51人、延べ76回で、10名の就農計画の作成を支援しました。30年度の新規就農者は41人となりました。

また、先進農業者を経営・栽培技術の伝授、就農後の助言等を行う「研修機関」として知事認定しており、30年度はナス、水田作、イチジクの3戸と、JAあいち三河岡崎市いちご部会、幸田町いちご組合、JA西三河いちご部会の3団体を認定し、新規参入者の受入体制を強化しました。

担い手の育成については、就農2年以内の農業者57人を対象に、集合研修、個別指導を実施し、早期経営安定を支援しました。



就農相談の実施状況

イ 優良農地の確保と集積・集約化の推進

農業の生産コストを削減し競争力を強化するため、農地中間管理事業等を活用して、市町、農協など関係機関と連携を密にして、担い手への農地の集積・集約化を進めています。

管内では、農地中間管理事業の制度開始以来5年間で全市町において貸付を行っており、30年度の貸付実績は安城市、西尾市、岡崎市などで計約46haとなり、平成28年度からの累計で9,148haとなりました。



集約化された農地（西尾市）

ウ 農業生産基盤整備等の推進

担い手農家への農地集積・集約化や、生産コストの削減を推進するため、農地の基盤整備や汎用化を図る整備を推進しています。

30年度は、経営体育成基盤整備事業の高棚地区（安城市）、堀割地区（西尾市）、福地地区（西尾市）の3地区が完了しました。

また、基幹的な農業水利施設のライフサイクルコストの低減、施設の信頼性の向上及び管理の合理化を図るため、農業水利施設保全対策事業の古川地区（西尾市）で進めていた古川揚水機場のポンプ整備等が完了しました。

これら4地区の受益面積は、合計1,141haです。



経営体育成基盤整備事業
高棚地区（安城市）



経営体育成基盤整備事業
福地地区（西尾市）

(4) 資源を生かす林業の実現

ア 木材の安定供給

面的なまとまりをもって効率的な森林施業を行い、木材を安定供給するため、森林経営計画の策定に取り組みました。

森林経営計画推進会議を開催し、認定までのスケジュールと進行管理や関係事業の調整を図り、岡崎市東河原・切山・毛呂・細川地区など、5地区で合計約270haが認定されました。

また、28年度から取り組んでいる循環型林業推進事業により、岡崎市毛呂町で主伐・獣害対策・コンテナ苗植栽を実施し、「伐る・使う→植える・育てる」森林資源の循環利用と木材の安定供給に取り組みました。



毛呂地区森林経営計画説明会



循環型林業推進トライアル事業地
(主伐・獣害対策) (岡崎市毛呂町)

イ 生産を担う人材の確保・育成

管内の岡崎森林組合をはじめ、各林業事業者に対して、「愛知県林業労働力確保支援センター」が主催する就業相談や研修授業などを支援しました。その結果、各事業者は木材生産技術者育成研修等を受講し、作業者のスキルアップが図られました。



木材生産技術者育成研修の状況

ウ 林業生産基盤の充実

計画的で効率的な森林施業を進めるため、林道開設(延長369m)、及び作業道の開設(延長5,092m)等により林内路網を整備し、林業生産基盤の充実を図りました。



林道一之小屋線(幸田町)

(5) 持続可能で活力ある水産業の実現

ア 漁業生産基盤の機能強化

あさり等水産生物の浅場漁場の整備を図るため、「あざりとさかな漁場総合整備事業」で、西尾市地先で3.90haの干潟・浅場造成を実施しました。

また、漁港の整備として、「漁港漁場機能高度化統合事業」によって、西尾市内の衣崎漁港防波堤について、漁港施設長寿命化のための保全工事を行いました。



保全工事を行った防波堤

イ 持続的な漁業生産の確保

西三河の主要漁獲物であるあさり種苗の適正放流と資源管理について、指導をしました。

また、栽培漁業センターで生産される、あわび等の6魚種について種苗放流を効果的に進め、水産資源の維持増大を図るよう指導しました。



放流を待つあわび種苗

〈6魚種〉

種 苗	くるまえび、がざみ、よしえび、とらふぐ、あわび、なまこ
-----	-----------------------------

ウ 活力ある担い手の確保・育成

若手の漁業者で組織されている西三河地区漁協青年部連絡協議会、中核漁業者で構成される西三河地区漁業士協議会、更に業種別の試験研究組織であるあさり研究会やのり研究会の調査や研修等の指導を通じて、意欲的に漁業に取り組む活力ある担い手の指導・育成を図りました。

(取組内容)

- ・伊良湖にある海上交通センターにおいて、船舶の航行監視技術及び安全操船について視察研修
- ・魚食普及やあさり、ばかがい等の資源管理技術の指導
- ・各研究会による調査・試験指導



海上交通センター視察研修の様子

(6) 食料の安全・安心の確保と環境への配慮

ア 食品の安全・安心の確保に向けた取組の強化

食品関連事業者を対象とした食品表示の監視・指導を80件実施し、食品表示の適正化を図りました。

また、JA あいち三河幸田憩いの農園始め3カ所において、食品表示研修会を開催し、食品表示基準に基づいた食品表示ルールを事業者に周知しました。



食品表示の遵守状況調査

〈研修会の開催状況〉

開催日	開催場所	参加人数
H30. 4. 18	西三河総合庁舎	13人
H30. 8. 31	JA あいち三河幸田憩いの農園	29人
H30. 10. 5	岡崎市図書館交流プラザ	26人



食品表示研修会
(JA あいち三河幸田憩いの農園)

イ 環境に配慮した取組の推進

愛知県では、GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) を安全安心な農産物の供給を行う上で重要な取組と位置づけ、これまでも推進してきました。

平成30年度から愛知県GAP認証制度が始まり、農業者等が愛知県GAP認証基準に沿って、食品安全、環境保全、労働安全等のために必要な取組を実施していることを、県が確認し認証します。愛知県GAP認証を取得することで、GAPの取組に対する社会的信用を得られるとともに、認証取得にあたり専門の指導員による指導を受けることで、生産工程のリスク対策が向上し、農業経営の改善につながります。また、本認証の取得により東京オリンピック・パラリンピック競技大会の食材供給が可能となります。

管内では、普及指導員の指導の元、果樹農家2戸と茶生産者集団(71戸)が県内初の認証を取得しました。これ以外にも県GAP認証に興味を示している農家があるので、農業改良普及課は引き続きGAP認証の取得を支援します。



GAP認証式の様子

2 農林水産業への理解促進と食料等の適切な消費の実践

(1) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進

ア 農林水産業の関心と理解を深める取組の推進

平成30年11月10日と11日、岡崎市中央総合公園で開催された「JAあいち三河まつり」において、「いいともあいちクイズ」を実施し、来場者へ愛知県産の農林水産物やいいともあいち推進店を紹介するクイズを実施し、いいともあいち運動をPRしました。

また、管内事業者に対し、「いいともあいち運動」ネットワーク会員への加入をはたらきかけ、新たに19名の事業者が加入し、平成28年度からの累計は39会員となりました。



いいともあいちクイズ
(JA あいち三河まつり)

イ 幅広い世代に対する農林水産業体験の機会の提供

JA西三河は、地域の農業者、地域住民、PTAの協力を得て、西尾市内小学校の5年生及び特別支援学級の米作り体験を実施しています。

30年度は、管内の小学校18校の約1,100名を対象に、田植え、案山子づくり、稲刈り、収穫祭と年間を通して米作り体験を行い、農業に対する理解を深めることができました。



田植え体験(西尾市立矢田小学校)

(2) 食育の推進による健全な食生活の実践

ア 若い世代を中心とした生涯にわたる食育の推進

平成30年10月21日、知立市福祉の里八ツ田で開催された知立市福祉健康まつり食育コーナーにおいて、知立市と生活協同組合コープあいちとの連携により野菜・果物の断面図や野菜の漢字のクイズが実施され、また、食育推進ボランティア米太郎による食育紙芝居が行われました。野菜の摂取や地産地消、郷土料理等について食育の啓発を図りました。



知立市福祉健康まつり食育コーナー
食育紙芝居

平成30年10月30日、西三河総合庁舎において、管内の食育推進ボランティア等を対象に、西三河地域食育推進ボランティア研修交流会を開催しました。82名が参加し、西尾市観光協会食部会部会長がインタビュー形式での取組紹介後、愛楽農園はいぼーなす代表が「畑のドラマと挨拶から始まる食育」と題した講演を行いました。また、講演後に交流の時間を設け、参加者は地元で活躍する講師と交流を深めるとともに、参加者同士の情報交換もできました。



西三河地域食育推進ボランティア
研修交流会

イ 食を通じた県産農林水産物や環境への理解と食文化の継承

平成31年3月24日、平成31年3月28日の両日、岡崎げんき館で岡崎市主催の食文化継承料理講習会が開催され、市内在住の親子28組65名が参加しました。市の郷土菓子である「法蔵寺だんご」や市の代表的な郷土料理の「煮味噌」の調理実演を行い、親子で岡崎の食文化について学び、味わうことができました。



食文化継承料理講習会
(岡崎市)

平成30年4月19日の「良いきゅうりの日」において、生産者団体が行う地元小中学校等へのきゅうりの贈呈活動を支援しました。

地元産農林水産物の学校給食への活用を推進することにより、児童や生徒の地元産農林水産物への関心を高め、理解の促進を図りました。



良いきゅうりの日
(安城市立安城東部小)

3 自然災害に強く緑と水に恵まれた生活環境の確保と元気な地域づくり

(1) 災害に強く安全で快適な生活環境の確保

ア 農山漁村の強靱化に向けた防災・減災対策の推進

巨大地震や集中豪雨等による自然災害から県土や県民の暮らしを守るため、農山村地域の防災・減災対策を推進しています。緊急農地防災事業高棚地区（安城市）では排水路の整備を実施しています。

また、農業用ため池の地震対策として、防災ダム事業を岡崎市、刈谷市、西尾市、幸田町で実施しています。



緊急農地防災事業高棚地区
(安城市)

イ 快適な生活環境の確保

農道の整備・保全を推進し、農業の振興と農山漁村地域の交通環境の改善・維持を図るため、経営体育成基盤整備事業福地地区（西尾市）で整備を進めてきました農道舗装工は、30年度に完了しました。

また、県営かんがい排水事業等で整備された用水路（パイプライン）の上部や排水路の周辺を対象に、農業水利施設の保安全管理、景観保全及び親水機能の増進を図るため、水環境整備事業中井筋2期地区（碧南市、刈谷市、安城市、高浜市）を実施しています。



水環境整備事業 中井筋2期地区
にて整備した遊歩道（高浜市）

(2) 森林・農地・漁場の有する多面的機能の発揮

ア 多面的機能を適切に発揮させる森林・農地・漁場の保全・整備

「あいち森と緑づくり税」を活用し、昭和30年代から盛んに植林されたスギ・ヒノキの人工林を健全に育成するため森林整備(間伐)を行いました。

整備箇所：岡崎市千万町町・古部町・冨尾町・額田郡幸田町大字大草・西尾市東幡豆町ほか。
合計116.82ha



あいち森と緑づくり森林整備事業(人工林) 施工地(岡崎市千万町町)

イ 地域で取り組む森林・農地・漁場の保全活動の推進

水源のかん養や県土、水質の保全などの多面的機能を十分に発揮させる農地の保全に係る取組として、93の活動組織が実施している農業農村多面的機能支払事業に対する支援をしました。

活動の一例として、平成29年度に20の組織が統合して発足した「幸田広域活動組織」(幸田町)では、支部組織それぞれが、農業用排水施設の草刈りや泥上げといった基礎的な活動に加え、農用地を活用してコスモスといった景観作物を育てたり、地域の子供たちと一緒に生き物調査をしたりと地域一体となって農業と農村景観の維持に努めていることが評価され、30年度に愛知県知事賞を受賞しました。



水路の生き物調査(久保田地区)



コスモス栽培(海谷地区)

干潟・藻場を保全するための活動組織である西尾市の「幡豆地区干潟・藻場を保全する会」が実施した、アマモ場保全のためのアマモ種子採取・選別・播種等の活動や、海の自然観察学習会開催を指導・支援しました。

また、西三河地区では28年に設立された「一色干潟保全会」が実施する有害生物駆除等の保全活動を指導しました。岡崎市男川地区では、「男川クリーンアップ隊」が実施する河川清掃等の生物環境保全活動を支援しました。



種子採取用の天然アマモの刈り取り

(3) 農林水産業を核とした元気な地域づくり

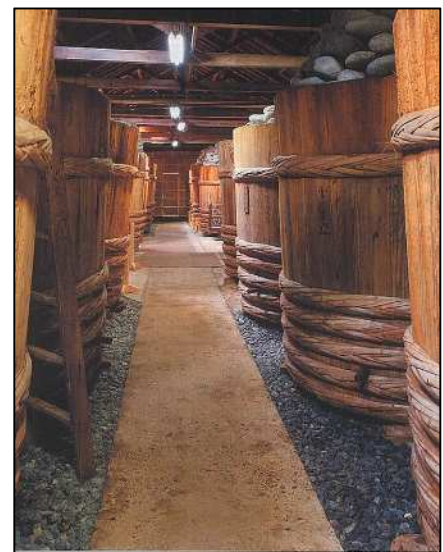
ア 地域の特性を生かした農山漁村の活性化

愛知県産の農林水産物等を活用し、食や花をテーマとして地域活性化などに取り組む地域を「食と花の街道」として認定し、魅力の情報発信と都市農村交流の促進を図っています。

平成30年度には、岡崎市額田地区で平成の名水百選に選ばれた湧水群で、老舗蔵元酒造場が使用する天然水「神水（かんずい）」と、地元の山や里の幸、果実やお茶などをトッピングに使ったかき氷を販売する店舗を結ぶ「おかざきかき氷街道」と、西尾市で古くから盛んに作られてきた、酒・味噌・しょうゆ・みりんといった醸造文化の体験教室や、味噌蔵・酒蔵の見学ツアー、醸造品を使用した商品を味わえる店舗を結ぶ「三河屋街道」の2つが認定を受けました。



「おかざきかき氷街道」のかき氷



「三河屋街道」のみそば一く

Ⅲ 西三河地域重点プロジェクト

1 西三河地域産地活性化・担い手確保育成プロジェクト

西三河地域では、平成28年度にJAあいち中央の「なし」、JA西三河の「いちじく」、JAあいち三河の「いちご」の各プロジェクトチーム（PT）が立ち上がり、29年度にはJA西三河の「いちご」、西尾市の「てん茶」の2つのPTが発足し、それぞれ10年後を展望した産地戦略を策定し、取組を進めています。これらPTの30年度の主な取組について紹介します。

また、30年度には、新たに6品目8産地が産地戦略を策定しました。

JAあいち中央胡瓜産地活性化PT	JAあいち中央碧南露地野菜産地振興協議会
JAあいち中央トマト部会	JAあいち中央菊共撰組合
JA西三河きゅうり次世代創生プロジェクト	JA西三河デルフィニウム部会
JAあいち三河促成なす産地活性化PT	JAあいち三河夏秋なす産地活性化PT

【JAあいち中央 なしPT】

○ めざす姿

～ブランド力の強化と園地継承システムによる安城梨の振興～

○ 主な取組

小学生を対象とした安城梨親子体験イベントや産直施設におけるあきづき試食販売会を実施し、PRと販売を行いました。また、奨励品種「甘ひびき」において、直接販売先の新規開拓のためふるさと納税への対応を行うとともに栽培拡大のため栽培研修会を5回開催しました。これらの取組により安城梨のブランド力強化を図りました。



あきづき試食販売会

また、生産部会員への面積拡大意向調査や園地承継マッチングを行うなど、園地承継システムの確立に向けた取組を進めました。

【JA西三河 いちじくPT】

○ めざす姿

～いちじくスクールを核とした就農支援システムの確立～

○ 主な取組

JA西三河が運営する「いちじくスクール」に30年度に4名が参加しました。いちじくスクールでは、1年を通じた実践的な研修を行い、就農から営農継続に向けた支援を行いました。また、新規就農希望者向けのパンフレット「いちじく栽培をはじめませんか！」の改訂版を作成しました。



いちじくスクールの研修風景

【JA あいち三河 いちごP T】

- めざす姿
～多様な経営体の導入によるいちご産地の活性化～
- 主な取組
新規就農研修施設の建設検討と研修運営方法の調査検討を行うとともに、栽培研修育苗施設の建設や研修生の募集を行い、平成31年度の研修開始に向けて取り組みました。また、炭そ病防除に有効な育苗技術の技術実証に取り組んでいます。



栽培研修育苗施設

【JA 西三河 いちごP T】

- めざす姿
～新規参入者の育成とICT技術の活用による産地の維持拡大～
- 主な取組
新規就農研修の運営、募集方法の調査検討を行い、体験研修を実施し、新規就農研修者の募集を行いました。また、定植苗のCO₂処理によるハダニ防除やビーフライ（訪花昆虫）の導入による奇形果削減に取り組み、生産技術の高度化を図りました。



定植苗のCO₂処理

【西尾市 てん茶P T】

- めざす姿
～世界に名だたる「西尾の抹茶」の確立～
- 主な取組
三河式てん茶炉のステンレス製網の導入によるてん茶の品質及び省コスト化の比較試験を行い、効果、検証結果の産地生産者へのフィードバックを行いました。



ステンレス製網の試験

【フォローアップ会議】

- 平成31年3月13日にP T関係者、市町及び県によるフォローアップ会議を開催し、各P T間の情報共有や連携強化を図りました。



フォローアップ会議

2 西三河農山漁村地域の防災・減災対策プロジェクト

気候変動の影響や南海トラフ地震等による災害発生リスクが高まっており、三河湾を擁する西三河地域は、高潮や液状化等による甚大な被害が想定されます。

このため、農業用ため池の決壊や斜面崩壊の防止対策、低平地における排水能力の強化、漁港の防災機能の強化、海岸保全施設等の耐震化が課題となっています。

このことから、農林漁業の主産地を抱える西三河地域の土地基盤の強靱化を図るため、農業用ため池や排水機場等の農業水利施設、治山施設、漁港施設、海岸保全施設の整備や耐震化等を推進し、安全で安心できる豊かな暮らしの実現をめざします。

主な取組は以下のとおりです。

【防災・減災機能の向上（耐震化等の推進）】

- ・ 治山施設の整備を推進し、森林や山間集落などを山地災害から守りました。
- ・ ため池の決壊防止のための耐震化を推進しました。
- ・ 計画的な排水機場の整備・更新を推進しました。
- ・ 漁港施設の耐震・対津波化を推進しました。
- ・ 津波、高潮等から背後地を守る海岸保全施設の耐震化を推進しました。

【ソフト対策の充実】

- ・ 西日本豪雨災害を受け、管内の農業用ため池の緊急点検を実施し、防災重点ため池の見直し等を進めました。
- ・ 排水機の維持管理に対する支援を行いました。



取組の事例

○ 治山施設の整備

森林において、荒廃するおそれのある溪流には治山ダムなど、山腹崩壊のおそれがある斜面には法枠工などの治山施設を設置し、山地災害に対する防災機能の向上を図っています。



法枠工（幸田町）

○ ため池の耐震化

大規模地震時の安定性が不足している農業用ため池について、決壊による被害を防止するため、防災ダム事業により耐震化を進めています。



小草池地区 堤体補強工（西尾市）

○ 計画的な排水機場の整備

たん水被害を未然に防ぐため、刈谷市、西尾市、幸田町において、農業用排水機場の耐震化や更新整備を計画的に進めています。



北浜川排水機場（西尾市）

○ 海岸保全施設の耐震化

地震発生時の津波や高潮等による被害から沿岸域（背後地）を守るため、海岸整備事業等により、海岸堤防の耐震化を進めています。



碧南2期地区 堤防耐震補強工（碧南市）



食と緑の西三河地域レポート 2 0 1 9

—食と緑が支える豊かな暮らしをめざして—

令和元年7月発行

愛知県西三河農林水産事務所
岡崎市明大寺本町1-4
電話 0564-23-1211内線 2436 (農政課)
電子メール nishimikawa-nourin@pref.aichi.lg.jp



西三河農林水産事務所